



2022 年 2 月 4 日
ジャパン SDGs アクション推進協議会

国連機関、政府、自治体、企業、市民社会などが集結

ジャパン SDGs アクションフォーラム

世界が求める SDGs と日本発の SDGs ～変革に向けた SDGs アクション～

2022 年 3 月 29 日（火）@オンライン配信



今年こそ進もう。
「知っている」から、
「やっている」へ。

ジャパンSDGsアクション推進協議会（会長・蟹江憲史 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）は、「世界が求めるSDGsと日本発のSDGs～変革に向けたSDGsアクション」をテーマに、3月29日（火）に「ジャパンSDGsアクションフォーラム」をオンラインで開催します。SDGs達成に向けて今、何が足りないのかという具体的な危機意識を共有したうえで、**SDGsを活用した地域の社会的課題の解決**など、具体的にどのようなアクションが求められているかマルチステークホルダーで議論、発信いたします。どなたでも視聴できます。多くの皆様の視聴及び取材をお待ちしています。

【概要】

- (1) 開催日 2022年3月29日(火) 9時30分～17時00分（日本時間）
- (2) 主 催 ジャパンSDGsアクション推進協議会
- (3) 配 信 オンラインでのライブ配信（2つのチャンネルで配信）
※ 配信URLは特設ホームページ等で別途お知らせします。
- (4) 言 語 日本語（チャンネル1のみ日英同時通訳あり）
- (5) 参加申込 こちらからお申込み下さい（当日視聴も可能です）
<https://japansdgsactionforum.peatix.com>
- (6) 内 容 次ページの通り。
※セッション名及び登壇者は変更になる場合があります。＜敬称略＞
詳細は本フォーラムの特設ホームページをご参照ください。
<https://www.japan-sdgs-action-forum.jp/>

Peatix



特設ページ



＜見どころ＞

本フォーラムの核となる「GSDR セッション」では、**国連経済社会局（UNDESA）との共催**により、持続可能な開発に関するグローバル・レポート 2023(Global Sustainable Development Report : GSDR)に向けた科学者が登壇し、「SDGs の進捗にインパクトを与えるものは何か」という視点から、SDGs に関する**世界の最新情報**を共有します。

【お問い合わせ先】 ジャパンSDGsアクション推進協議会事務局（神奈川県いのち・未来戦略本部室） 湊、沖田
Tel:045-285-0909／FAX:045-210-8865
Email:sdgs-renkei.mx4p@pref.kanagawa.lg.jp

【コンテンツ一覧】

チャンネル 1 (司会：櫻田彩子 エコアナウンサー)	チャンネル 2 (司会：MITSUMI ラジオ DJ)
9:30～10:00 オープニング ◆挨拶・蟹江 憲史 ジャパン SDGs アクション推進協議会会長/国連事務総長が GSDR のために任命した独立した科学者 (Member of the fifteen Independent Group of Scientists to prepare 2023 GSDR appointed by UN Secretary General : IGS) ・国連経済社会局 (UNDESA) 幹部 (調整中) ・黒岩 祐治 神奈川県知事 ・根本 かおる 国連広報センター所長	
10:00～11:00 【GSDR セッション/国連経済社会局 (UNDESA) 共催】 世界を変革し SDGs を達成するために、何がインパクトをもたらすか ～GSDR2023 中間報告から見えてくるもの～【基調講演】 ・国連経済社会局 (UNDESA) 職員 (調整中) ・蟹江 憲史 ジャパン SDGs アクション推進協議会会長 ・国連事務総長が GSDR のために任命した独立した科学者 (independent group of scientists:IGS) から	
11:00～12:15 【GSDR セッション/UNDESA 共催】 GSDR2023 (中間報告) などグローバルな潮流を踏まえた、「変革」に向けた SDGs アクションの現状と今後の展開 ～「変革」へ向けたカギとなるポイントとは何か！～ 【パネルディスカッション】 ・蟹江 憲史 推進協議会会長/IGS ・長谷川 知子 (一社)日本経済団体連合会常務理事 ・有馬 利男 (一社)グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン代表理事 ・三輪 敦子 (一社)SDGs市民社会ネットワーク共同代表理事 ・金井 司 21世紀金融行動原則運営機関/ 三井住友トラスト・ホールディングス(株)フェロー役員 ・IGS	11:00～12:00 【ローカルセッション第一部】 地域を元気にする SDGs アクション 【事例紹介】 ・地域経済専門家からデータでみる地域の SDGs ・地域再生大賞受賞団体、推薦新聞社 (アノミアーナ、福井新聞社 福井県) (株)ディーグリーン、伊勢新聞社 三重県) ※地域再生大賞 全国地方紙 46 紙と共同通信社が、地域づくりに挑む団体を表彰(2010 年度～)
12:30～13:30 【GSDR セッション/UNDESA 共催】 グローバルな視点から課題解決に向けたビジネスによる SDGs アクションの事例発信 【事例発表】 ・蟹江 憲史 推進協議会会長/IGS ・釣流 まゆみ (株)セブン&アイ・ホールディングス執行役員 経営推進本部サステナビリティ推進部シニアオフィサー ・酒井 香世子 損害保険ジャパン(株)取締役執行役員 ・竹田 達哉 三井住友フィナンシャルグループ企画部サステナビリティ推進室長 ・IGS	12:10～13:40 【ローカルセッション第二部】 広域自治体×SDGs 地域の社会的課題解決に向けた SDGs アクション 【事例紹介】 ・神奈川県 SDGs を活用した共助による社会的課題解決 ・滋賀県 琵琶湖版 SDGs 「マザー・レイク・ゴールズ (MLGs)」の取組 ・徳島県 徳島から世界へ！ 4 ステップで広げる「エンカル消費」 ・沖縄県 官民連携による子どもの貧困対策
14:00～15:00 【Youth Co:Lab (国連開発計画 (UNDP)・Citi Foundation) セッション】 変革を起こす若手社会起業家～声を届けて「誰一人取り残さない」社会の実現へ～ Youth Co:Lab (ユース・コ・ラボ) 若手対象SDGsビジネスコンテスト 日本・インド大会受賞者パネルディスカッション ・栗本拓幸 (株)Liquitous 代表取締役CEO ・山口由人 (一社)Sustainable Game 代表理事 (高校2年生) ・Shorya Mittal Humans of Safe Space CEO	14:00～15:00 【ローカルセッション第三部】 SDGs のローカライゼーションに向けた仕組みづくり 【パネルディスカッション】 ・川廷 昌弘 推進協議会総合プロデューサー ・橋田 欣典 共同通信社編集局企画委員 ・大貫 萌子 SDGs- SWY 共同代表 ・山本 真悠子 (株)横浜銀行地域戦略統括部 ビジネスリーダー ・共同事務局職員
15:30～16:30 総括セッションーThink Globally, Act Locally 【パネルディスカッション】・蟹江 憲史 推進協議会会長 ほかフォーラム登壇者等	
16:30～17:00 クロージング	

【ジャパン SDGs アクション 協賛パートナー】 ※ 五十音順

○プレミアムパートナー（3社）

株式会社セブン&アイ・ホールディングス／損害保険ジャパン株式会社／株式会社三井住友銀行

○オフィシャルパートナー（6社）

株式会社大林組／清水建設株式会社／株式会社日刊工業新聞社／株式会社ファンケル／三井住友信託銀行株式会社／株式会社横浜銀行

【後援】

外務省／内閣府／金融庁／環境省／経済産業省／一般社団法人日本経済団体連合会／公益社団法人経済同友会／一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン／一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク／地方創生SDGs官民連携プラットフォーム／神奈川県／滋賀県／徳島県／沖縄県

【ジャパンSDGsアクション推進協議会構成団体】

外務省／内閣府／金融庁／環境省／経済産業省／一般社団法人日本経済団体連合会／公益社団法人経済同友会／一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン／一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク／SDGs-SWY／次世代のSDGs推進プラットフォーム／地方創生SDGs官民連携プラットフォーム／神奈川県／慶應義塾大学SFC研究所xSDG・ラボ

【事務局】

神奈川県／滋賀県／徳島県／沖縄県

【参考：持続可能な開発に関するグローバル・レポート(Global Sustainable Development Report : GSDR について】

GSDR は、持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム（HLPF）における科学と政策の接点を強化することを目的とした国連の出版物です。「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」のフォローアップ及びレビューを行うこととされた GSDR は、SDGs の進捗を加速させるために政策立案者を支援するためのエビデンスに基づいた手段です。GSDR は、国連事務総長が任命した独立した科学者グループ(independent group of scientists:IGS)によって起草され、4 年ごとに発行されています。前回の報告書は 2019 年に発行され、2023 年の報告書は現在作成中です。推進協議会の会長である蟹江憲史慶應義塾大学政策・メディア研究科教授は IGS のメンバーとして、日本から唯一選出されています。

【会長挨拶】

世界が求めるSDGsと日本発のSDGs～変革に向けたSDGsアクション～

2020年初頭に世界を襲ったパンデミックは、「行動の10年」に入った直後のSDGs達成に向けた行動に急ブレーキをかけました。ただでさえ達成困難であったSDGsの実現は、より困難なものとなったと言われています。

そうした中、私たちジャパンSDGsアクション推進協議会は、2030年のSDGs達成に向け「変革」を呼び起こすために何が必要かについて、マルチステークホルダーで議論する「ジャパンSDGsアクションフォーラム」を、国連機関などと連携して開催します。

フォーラムでは、SDGsの達成に向け、国際的な潮流を踏まえ、SDGs達成の変革のカギとなる「レバレッジ・ポイント」に関する最新動向を共有し、今後日本が進むべき方向性について議論・発信します。

併せて、日本の「SDGsローカライゼーション」の加速に向けて、「地域課題解決のグッド・プラクティス」を共有するとともに、「Think Globally, Act Locally」の視点から、世界に通じるSDGsアクションの仕組みづくりに向け、マルチステークホルダーが今後取るべき行動や連携について発信してまいります。

今こそ、SDGsを道しるべに、パンデミックを乗り越え、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現に向け、一人ひとりが具体的な行動を起こして変革を実現していかなければなりません。

今年こそ進もう。「知っている」から、「やっている」へ。

みんなでより良い変革に向けアクションを起こしましょう！

ジャパンSDGsアクション推進協議会
会長 蟹江 憲史

